

アトリエに黒猫がやってきた

1か月前から黒いオス猫がアトリエに出入りするようになった。名前はまだない。

「ニャ〜」と甘えた声でエサをねだる姿は以前住みつけていた野良猫「田吾作」を思い出す。田吾作は初めて会った時から人間に慣れていた。

黒猫は体が小さいので未成年猫のようである。ヒトにエサをねだることは覚えたが、まだ「家族」の意識はない。「野猫」の域を出ていない。アトリエに出入りする人がエサをあげているので、どうやら付近に住んでいるようだ。もしかしたらアトリエは真夜中のねぐらになっているのかもしれない。

果たして野猫はペットにまで飼いならすことが出来るのか否か悩むところだ。

アトリエ近辺に住宅はないので、ご近所迷惑になることはない。しかし、周辺にはハンターの仕掛けたシカやイノシシ捕獲の罠もある。以前の猫、田吾作のようにまた、その罠で黒猫も大怪我をすることもあるかもしれない。エサだけ与えて、自由を満喫させるのは自然の脅威にさらされて野猫の平均寿命は5年だが、飼猫はその倍であると聞いている。

完全に家猫として「カゴのネコ」にするのが良いのか、自由を感じさせて短い一生を送らせるのが良いのかは迷うところだ。

2023年11月



いつかは彫刻モデルに……